

《研修報告》第79回全国都市問題会議

テーマ：ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略

—新しい風をつかむまちづくり—

会場：沖縄県立武道館

主催：全国市長会、公益社団法人後藤・安田記念東京都市研究所、公益財団法人日本都市センター、那覇市

〔研修目的〕本格的な超高齢・人口減少社会が到来する中で、全国的に人の動きの活発化、その動機や目的(価値観)の多様化がみられる。まちづくりの未来を予感させる新しい風をつかみ、都市の魅力を高めることについて議論から学ぶ。



平成29年11月9日(木)9:30~17:00

●基調講演

「多様性のある江戸時代の都市」山本博文氏 東京大学資料編纂所教授



江戸時代の町の特徴と参勤交代がもたらしたもののから、現在の日本の町の原型を探る。

江戸、京都、大阪の「三都」は、諸国の城下町の発展に支えられていた。江戸300藩のそれぞれの城下町は、海や山の地形を生かした都市を築いていた。

参勤交代があることで、宿場町のインフラが整備され、流通や人の移動を容易にしたことから経済に大きな影響を及ぼしている。例えば、お伊勢参りや大名行列の見学。

紀州のみかんが遠い青森に運ばれ、正月に食べる習わしが根付いている。又、鹿児島や北海道から運ばれた薬が富山から全国に流通した。大都市が一人勝ちにならない構造になっていた。

近代は人が中間地点に止まらなくなったことから、取り残される市町村が出現。特色あるまちづくりが求められている。

主報告

「ひと つなぐ まち」—新しい風をつかむまちづくり—

城間幹子氏 沖縄県那覇市長



那覇市は、人口密度8,072人/㎢で、日本で4番目に高い都市となっている。空港と港がある那覇市は沖縄の玄関口であり、沖縄国際物流ハブが構築されるなど注目されている。また、那覇空港第2滑走路の増設や那覇軍港の移設も検討されている。

現在4人に一人は外国人観光客で、クルーズ船での来航が目立っている。こういった新しい風を追い風に、①国際化②資源を生かした魅力づくり③環境整備④まちづくりとの連動

⑤リーディング産業の創出の柱にまちづくりを進めている。

子どもの貧困対策は、食事や学習支援を行うための居場所づくりや、中学校区への寄り添い支援員の配置。放課後児童クラブの保育料の減免といった負の連鎖を断ち切るための施策を展開している。貧困家庭の生徒の高校進学率が90%になった。

一般報告

●「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」

ー人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か？ー

山下祐介氏 首都大学東京大学院人文科学研究科准教授（都市社会学）



家と村で国。集めて分ける、力の流れを中心に支え循環させる中心が都市だと言える。

都市の魅力とは、単独の何かではなく、力を集め、またその力を国家に与えるシステム。

現代社会は、一部の都市が独り占めしているため、時間空間のアンバランスが起きている。地方消滅の罨は排除の理論。問題は経済的ではなく社会的心理的問題として捉える。

人口減少を食い止めるためには、人口減＝財政難でも持続的なインフラサービスの維持を実現することにある。さらに、成長社会の限界を前に、きめ細やかな住民の参加と連携の促進、協働を前提とした政策形成の場づくりが人口問題を解決していく。

●「自然と都市が融合し 共生が地域の価値を高めるまちづくり」

蛭名大也氏 北海道釧路市長



釧路市は、金沢市長崎市と共に国の「観光立国ショーケース」に認定され、外国人受入のモデル都市として世界一級の観光づくりを目指している。新たなことに挑むだけでなく、今あることの価値自体を高める「一つ上のまちづくり」を進めている。

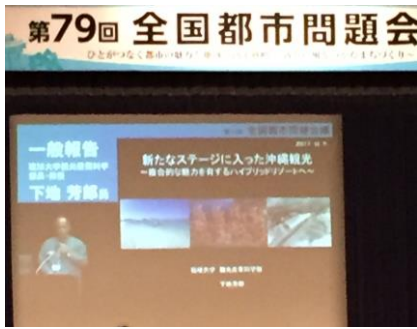
阿寒の自然環境を守り育む姿勢は、「前田家の財産はすべて公共の財産となす」とした阿寒前田一步園にはじまる。その精神は今も受け継がれている。

近年は、大学や就職で転出超過が続いている。

夏はスーパーファンタスティック釧路。冬は（ポジティブに）寒いではなく涼しいと表現し、冬は花粉がない快適空間とポジティブに押ししている。

●「新たなステージに入った沖縄観光」

下地芳郎氏 琉球大学観光産業科学部教授



「青い海、青い空、白い砂浜」というイメージのから外国人観光客の増加やビジネス目的の等、沖縄観光を取り巻く環境は大きく変化している。沖縄に初めて来た人は14%とリピーター率が高い。現在11万人近くの宿泊は可能だが、1日平均の9万人の来訪がありピーク時には不足している。

修学旅行先としてもここ数年は全国1位。おもいやりやおもてなしの面でもホスピタリティーが高い。また、近年は企業向けに「ウェルカムんちゃカンパニー」を展開している。

基地があることで経済が成り立っている誤解があるが、所得に占める割合は5.7%。半分以上は観光による。むしろ返還された土地活用の経済効果が高い。

戦前、大阪商船が7泊8日の異文化の魅力が売りの団体ツアーを組んだのが最初の観光。返還後沖縄観光は、海洋博、JAL、ANAのビーチリゾートキャンペーン、そして沖縄サミットと成長産業になっていった。

那覇市は、その歴史的経緯から「琉球（沖縄）」「日本」「中国」「アメリカ」という4つの顔を持つ。「観光は平和へのパスポート」に代表される観光を通じた世界の平和研究拠点、国際交流拠点としての取り組みの強化を期待できる。

平成29年11月10日(金)9:30~12:00

パネルディスカッション

「ひとつながり都市の魅力と地域の創造性」—新しい風をつかむまちづくり—

●「人を育て・人が育つまちづくり」—協働・連携の中で—

パネリスト 染谷絹代氏 静岡県島田市長

トーマス号の走る大井川鉄道のまち。

人口減少を市民協働でカバーしていく縮充の時代と捉えて事業に取り組んでいる。

・緑茶愛シビックくらぶ、緑茶の水道、健康チョコ・アイスの出口作戦。パラグライダーパークでメッカを目指す。映画・超高速参勤交代の蓬莱橋、15万人の観光地にさらに賑わいを付加していく。リバティマラソンには、2000人のボランティアが集まった。



●「ふるさとルネッサンス」—16年の軌跡—

パネリスト 山岸正裕氏 福井県勝山市長

恐竜の町博物館の来場者は90万人。

独自の文化、風土をコミュニティの住民が再発見し地域に誇りを持つ。それがふるさとルネッサンス。地域全体を博物館にしたエコミュージアムも協議会の運営。かたくり、なれずし、



木炭、えごま等 30 事業がある。現在までに 84 団体 349 事業を行い事業費の総合計は約 1 億 1 千万円となっている。3 年ごとに改良と成果を見て、協議会が交付を決定する。

- ・歴史漫画『白山平泉寺物語』
- ・北谷町小原集落の再生と活性化プラン*JTB 交流文化賞、総務省のふるさとづくり大賞

●人と人がつながり、共感で響き合う一街の魅力と新たな地域価値創造―

パネリスト 藤田とし子氏 まちひと感動のデザイン研究所代表

予算がなくてもできることは、地域の人材を掘り起こして生かすこと。感動が人を動かし、共感が人をつなげ、まちづくりの思いが育っている。

「場」と「しかけ」が必要。

柏インフォメーションセンターで、開発に伴う新住民への案内から、歴史文化がないことに気づく。案内するために調べること、発見と発掘があった。情報の提供と共に市民が編集委員となって、まちづくりマップが 5 種類できた。(ワクワクのタネ)

・たなべの調査隊マップ「たなはる」、たなべのまちゼミ「たなべる」事業。今、地方創生に求められるのは、「みんなのサードプレイスづくり」だと考えている。埋もれていた地域資源を見出しつつ、新たな地域価値の創造に取り組むためには、「自分ゴト」としてまちづくりに取り組む地元人材の育成が不可欠である。



●産業観光による地方創生

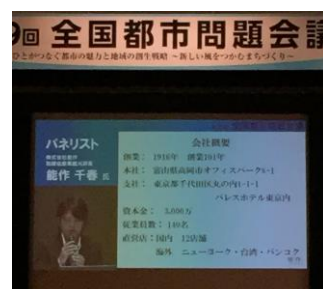
パネリスト 能作克治氏 株式会社能作代表取締役社長

工場見学の始まりは、仕事に誇りを持ってもらうことが目的だった。

産業観光 5 つのサービス

- ・工場見学「FACTORY TOUR」
- ・体験工房「NOUSAKU LAB」
- ・富山県内の観光情報「TOYAMA DOORS」
- ・地元食材を錫の器で提供する「IMONO KITCHEN」
- ・直営店「FACTORY SHOP」

富山県にはたくさんものづくり産業がある。企業が観光産業に取り組むことにより、長期的に見て、県民の意識改革、観光客の増加、それに伴い地域経済が活性化する好循環が生まれることを期待する。



●「感動立県おきなわ！を目指して」

パネリスト 平田大一氏 沖縄文化芸術振興アドバイザー

2011 年、沖縄県に新設された「文化観光スポーツ部」の部長に就任。(2 年間在任)

就任 2 年目に、持論「演出論的組織運営」を見出した。舞台



成功の鍵は「台本（ストーリー）と配役（キャスティング）と予算（パジェット）」の3つの要素が必要である。県庁の仕事で言えば、「計画と人事と予算」である。施策を考え実行していくには「良い台本と良い配役」は重要である。

今年は復帰 50 年のリセットの年。

沖縄文化芸術振興アドバイザーとして、沖縄に行ってみたいと思わせるプロモーションを考える。沖縄方のインパクトのある取り組みとして「感動産業」を軸とした「感動立県おきなわ！」の宣言を提案している。

●コーディネーター 後藤春彦氏 早稲田大学理工学術院教授のコメント

それぞれの報告から、量より質、PDCA サイクル、マルチステークホルダー、誇り、感動、心を耕す等、いずれも成功例の鍵となっている。

これまでは、問題を分けて単純化効率化してきたが、これからは分かち合う時代。人と人がつながっていく時代感覚を感じる。

[研修所見]

沖縄は、青い海と青い空のパラダイスから、もっと魅力のあるまちへと生まれ変わろうとしている。漁港のお祭りハーリー、ギネスの大綱引き、まちまーい（那覇ガイド）等、あるものを見直し、住民と観光客と双方の参加型観光の魅力を新たに作り出している。

縮小を縮充へと導くのは参加であることが、いずれの報告者からも共通の糸口として語られていた。

市民協働が進んでいる鶴ヶ島市で生かせることは多いと思われる。

返還前はパスポートが必要だった話から沖縄の歴史をリアルに感じた。

●道の駅かでなから見た嘉手納基地



*那覇空港からゆいレールで「旭橋駅」へ。那覇バスターミナルかから「嘉手納」停留所で乗り換え「嘉手納運動公園入口」停留所の前が「道の駅かでな」